

第 15 回航空気象シンポジウム

テーマ:「霧・低視程と航空機の運航」

高カテゴリー運航の導入により、低視程が運航に与える影響は減りつつあるが、機種や会社、機長の資格により着陸可能な気象条件が異なることや、高カテゴリー運航実施時においても空港の処理容量が低下し遅延が発生するため、霧の予報は非常に重要である。また、高カテゴリー運航が実施できない空港や条件での霧の発生や、霧以外の低視程現象の予報も安全運航には欠くことができない。

今年度の航空気象シンポジウムにおいては、霧についてその発生のメカニズムから予報、霧に関するプロダクトの活用方法について学び、運航への影響を低減するために我々パイロットや管制官がどう協力していくべきかを探る。

プログラム

◇プロローグ・開会の挨拶◇

13:00～13:15 ● 気象庁 国際・航空気象管理官 八木勝昌 様

◇講演◇

13:15～13:55 ● 講演 1 ひまわり 8 号霧監視プロダクトの紹介
気象庁大気海洋部業務課気象技術開発室 丸山 拓海 氏

14:00～15:00 ● 講演 2 気象現象としての霧
気象庁 OB 澤井 哲滋 氏

◇公開座談会◇

15:10～16:50 ● 霧・低視程と航空機の運航

パネリスト

P I L O T : 真下 和之氏(ANA B787)、眞嶋 裕介氏(ソラシドエア B737)

航空管制官 : 大平 健二氏(成田タワー)、二宮 創氏(東京アプローチ)

運航管理者 : 神田 安奈氏(ANA)

司 会 : JAPA 航空気象委員長 山本秀生(NCA B747)

◇まとめ◇

16:50～17:00